

筑波大学附属図書館 研究開発室  
年次報告

*Annual Report of Research and Development Office  
University of Tsukuba Library*

令和6年度  
2024

# 筑波大学附属図書館 研究開発室

## 年次報告(令和 6 年度)

### 目次

|                                                            |    |
|------------------------------------------------------------|----|
| 1. 筑波大学附属図書館研究開発室規程および要項                                   |    |
| ● 附属図書館研究開発室規程                                             | 1  |
| ● 附属図書館研究開発室要項                                             | 3  |
| 2. 組織                                                      |    |
| ● 附属図書館組織図                                                 | 5  |
| ● 令和 6 年度研究開発室員名簿                                          | 6  |
| 3. 活動概要(令和 6 年度)                                           | 7  |
| 4. プロジェクト報告                                                |    |
| 4.1 令和 6 年度プロジェクト報告                                        | 8  |
| 令和 6 年度研究開発室プロジェクト一覧                                       | 9  |
| (1) ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討                                 | 10 |
| (2) 附属図書館における貴重資料の保存と公開                                    | 11 |
| (3) 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討                                | 13 |
| (4) デジタル画像の利用促進                                            | 14 |
| (5) バーチャル図書館コンテンツの研究開発                                     | 15 |
| (6) 図書収蔵環境の安定化と対策                                          | 16 |
| (7) 筑波大学附属図書館における「デジタル・ライブラリー」の推進<br>ーライブラリー・スキーマ案の検討を中心にー | 17 |
| 4.2 令和 6 年度成果報告会                                           | 20 |
| ● プログラム                                                    | 21 |
| ● 資料                                                       |    |
| ー ポスター発表                                                   | 22 |

○筑波大学附属図書館研究開発室規程

〔平成17年5月27日〕  
〔法人規程第45号〕

改正 平成28年法人規程第60号

筑波大学附属図書館研究開発室規程

(趣旨)

第1条 この法人規程は、筑波大学附属図書館規則(平成16年法人規則第22号)第3条の2第2項の規定に基づき、附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 研究開発室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学術情報の収集及び管理の一元化・効率化等に係る研究及び開発に関すること。
- (2) 学術情報の収集、管理、提供、発信等に係る制度的・技術的課題の研究及び開発に関すること。
- (3) 電子図書館に係る調査及び研究に関すること。
- (4) 貴重図書等図書館資料の保存・公開等に係る調査及び研究に関すること。
- (5) その他教育研究支援活動に係る調査及び研究に関すること。

(組織)

第3条 研究開発室は、次に掲げる室員で組織する。

- (1) 附属図書館副館長
- (2) 次条に規定する室長の推薦に基づき、附属図書館長が委嘱する者 若干人

(室長)

第4条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長が指名する附属図書館副館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を総括する。

(室員の任期等)

第5条 第3条第2号の室員の任期は、1年とする。ただし、任期の終期は、室員となる日の属する年度の末日とする。

2 補欠の室員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前2項の室員は、再任されることができる。

(運営会議)

第6条 研究開発室に、第2条の業務に関する事項について協議及び連絡調整を行うため、運営会議を置く。

2 運営会議は、室長、室員及び室長が必要と認める者で構成する。

3 運営会議は、室長を議長とし、必要に応じて開催する。

(プロジェクト)

第7条 研究開発室に、第2条の業務を実施する組織としてプロジェクトを置く。

(事務)

第8条 研究開発室に関する事務は、学術情報部情報企画課において処理する。

(雑則)

第9条 この法人規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この法人規程は、平成17年5月27日から施行する。

附 則 (平28. 3. 24法人規定第60号)

この法人規程は、平成28年4月1日から施行する。

○ 附属図書館研究開発室要項

〔平成17年9月30日〕  
附属図書館長決定

改正 平成27年3月31日

平成28年3月24日

(趣旨)

- 1 この要項は、筑波大学附属図書館研究開発室規程（平成17年法人規程第45号）第9条の規定に基づき、筑波大学附属図書館研究開発室（以下「研究開発室」という。）の管理運営に関して必要な事項を定めるものとする。

(プロジェクト)

- 2 室員は、プロジェクトを主宰する研究代表者又は研究分担者としてプロジェクトに参加する。
- 3 プロジェクトは、研究代表者の申請に基づき、第10項に規定する室員会議の議を経て室長が承認する。
- 4 プロジェクトの実施期間は1年間とし、プロジェクトが承認された日の属する年度の末日とする。ただし、研究計画を更新することにより、次年度も継続申請することができる。

(プロジェクト協力者)

- 5 研究開発室にプロジェクト協力者（以下「協力者」という。）を置くことができる。
- 6 協力者は、室長が、本学の教職員及び大学院生、又は学外の有識者に依頼するものとする。
- 7 協力者の任期は、1年とする。ただし、任期の終期は、協力者となる日の属する年度の末日とする。
- 8 協力者は、再任されることができる。
- 9 協力者は、研究開発室が行うプロジェクトの構成員として、室員と協同でプロジェクト業務を行う。

(室員会議)

- 10 研究開発室に、プロジェクトを円滑に実施するため、室員会議を置く。
- 11 室員会議は、室長、室員、協力者及び室長が必要と認める者で構成する。
- 12 室員会議は、室長を議長とし、必要に応じて開催する。

附 記

この要項は、平成17年9月30日から施行し、平成17年5月27日から適用する。

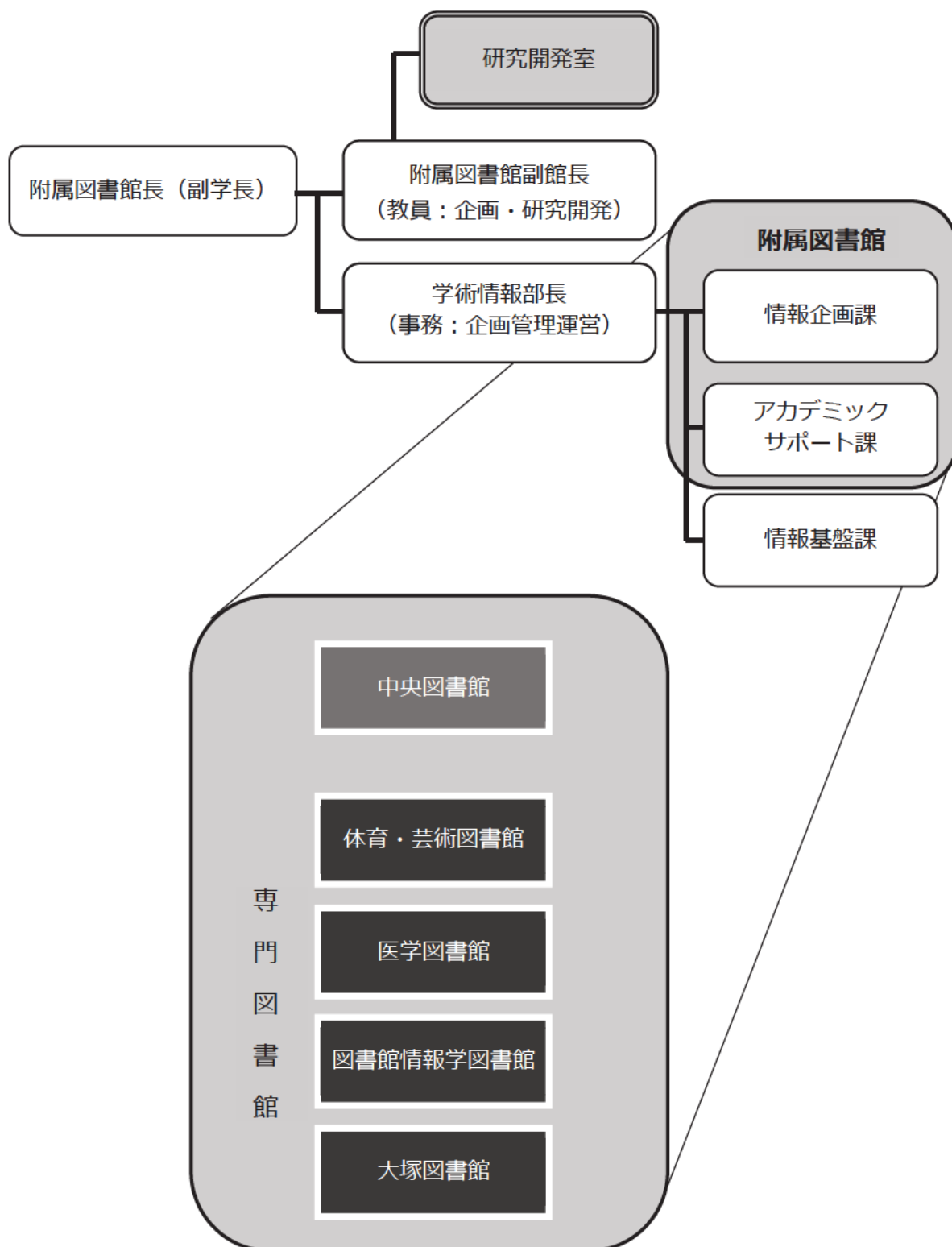
附 記

この要項は、平成27年4月1日から実施する。

附 記

この要項は、平成２８年４月１日から実施する。

附属図書館組織図



令和6年度 附属図書館研究開発室員名簿

令和6年4月1日現在

|    | 所 属              | 職 名 | 氏 名       | 任 期            | 備 考      |
|----|------------------|-----|-----------|----------------|----------|
| 室長 | 附属図書館<br>(人文社会系) | 副館長 | 山 口 恵 里 子 |                | 規程第3条第1号 |
|    | 人文社会系            | 教授  | 島 田 康 行   | R6.4.1～R7.3.31 | 規程第3条第2号 |
|    | 〃                | 准教授 | 和 氣 愛 仁   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 〃                | 助教  | 堤 智 昭     | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 生命環境系            | 教授  | 野 村 港 二   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 芸術系              | 教授  | 松 井 敏 也   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 〃                | 准教授 | 水 野 裕 史   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 図書館情報メディア系       | 教授  | 宇 陀 則 彦   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 〃                | 准教授 | 高 久 雅 生   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 〃                | 准教授 | 小 泉 公 乃   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 〃                | 准教授 | 村 井 麻 衣 子 | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 〃                | 助教  | 小 野 永 貴   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |
|    | 学術情報部            | 部長  | 斎 藤 未 夏   | R6.4.1～R7.3.31 | 〃        |



### 3. 活動概要（令和 6 年度）

---

| 年月日             | 研究開発室関連事項                            |
|-----------------|--------------------------------------|
| 6.3.22～6.4.26   | 新規プロジェクトを公募                          |
| 6.6.7           | 令和 6 年度第 1 回運営会議                     |
| 6.7.22          | 令和 6 年度第 1 回室員会議                     |
| 6.10.29～6.11.22 | 令和 6 年度附属図書館特別展「忠孝一本ー江戸時代のモラリティー」を開催 |
| 6.12.23         | 令和 6 年度第 2 回室員会議                     |
| 7.2.14          | 令和 6 年度附属図書館研究開発室成果報告を開催             |
| 7.3.17          | 令和 6 年度第 2 回運営会議                     |

#### 4. プロジェクト報告

---

### 4.1 令和 6 年度プロジェクト報告

#### 4.1 令和 6 年度プロジェクト報告

---

##### 令和 6 年度研究開発室プロジェクト一覧

| No | プロジェクト名                                                | 担当室員（◎:代表者）  |
|----|--------------------------------------------------------|--------------|
| 1  | ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討                                 | ◎島田、野村、小泉、小野 |
| 2  | 附属図書館における貴重資料の保存と公開                                    | ◎水野          |
| 3  | 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討                                | ◎高久、宇陀、斎藤    |
| 4  | デジタル画像の利用促進                                            | ◎和氣、宇陀、堤     |
| 5  | バーチャル図書館コンテンツの研究開発                                     | ◎小野、宇陀       |
| 6  | 図書収蔵環境の安定化と対策                                          | ◎松井          |
| 7  | 筑波大学附属図書館における「デジタル・ライブラリー」の推進<br>ーライブラリー・スキーマ案の検討を中心にー | ◎斎藤、山口、小泉、村井 |

(1) ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討

| 具体的な主題  | ライティング支援連続セミナーの実施                                                                            |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研 究 組 織 | 島田康行* 人文社会系*<br>野村港二** 生命環境系<br>小泉公乃** 図書館情報メディア系<br>小野永貴** 図書館情報メディア系<br>(* 研究代表者 ** 研究分担者) |
| 協 力 者   | 田川拓海 人文社会系<br>学習支援推進 WG                                                                      |

1. 研究目的

ラーニングコモンズにおける学習支援活動の一環として、「ライティング支援連続セミナー」を実施し、ラーニングコモンズにおける学群生、大学院生への学習支援の在り方を検討する。

2. 実施計画

平成 24 年より継続中の、研究代表者・分担者・協力者によるライティング支援セミナーを開講する。学群生・大学院生向けの連続セミナーとし、対面実施のほか、オンデマンドでの提供を検討する。

実施時期は秋学期中（10 月～12 月）を予定する。

3. 主な研究成果（発表論文、会議発表、受賞等あれば付記）

- ・以下の日程・内容で、ライティング支援連続セミナーを実施した。

第 1 回：10 月 17 日（木）15:15～16:15 学術論文とそのほかの文章の特徴

第 2 回：10 月 24 日（木）15:15～16:15 下書きからパラグラフライティングを目指す

第 3 回：10 月 31 日（木）15:15～16:15 疑うことから始めよう―批判的に考える―

第 4/5 回：11 月 14 日（木）15:15～16:45 事実と意見／文字と絵

第 6 回：11 月 21 日（木）15:15～16:15 レポート執筆から論文投稿へ

―書いた文章を学会に出す基本と注意点―

会場：中央図書館本館 2 階ギャラリーゾーン

\* 一部については manaba を利用したオンライン配信を行った。

- ・各回約 15～20 名の参加者があった。
- ・学群生を対象と想定した回にも少なからず大学院生の参加が見られた。今後、大学院生を対象とする回を設定することを含め、各回の対象を明確にし、タイトル・内容を練っていくことを考えたい。また、セミナー全体を通して、初学者向けから中級者向けへと段階を設定することを考えたい。

(2) 附属図書館における貴重資料の保存と公開

| 具体的な主題  | 附属図書館における貴重書・和装古書の保存・公開と基礎的研究 |                               |
|---------|-------------------------------|-------------------------------|
| 研 究 組 織 | 水野裕史                          | 准教授（芸術系）                      |
| 協 力 者   | 井川義次                          | 教授（人文社会系）                     |
|         | 谷口孝介                          | 名誉教授（人文社会系）                   |
|         | 真中孝行                          | 学術情報部 主幹（学術情報部 情報企画課）         |
|         | 大石粧洋                          | 学術情報部 一般職員（学術情報部 情報企画課）       |
|         | 大久保明美                         | 学術情報部 専門職員（学術情報部 情報企画課）       |
|         | 中尾拓夢                          | 学術情報部 一般職員（学術情報部 情報企画課）       |
|         | 廣田直美                          | 学術情報部 主幹（学術情報部 情報企画課）         |
|         | 福井恵                           | 学術情報部 係長（学術情報部 情報企画課）         |
|         | 又吉うめ乃                         | 学術情報部 一般職員（学術情報部 アカデミックサポート課） |
|         | 吉田芙弓                          | 学術情報部 主任（学術情報部 アカデミックサポート課）   |

1. 研究目的

当プロジェクトは、附属図書館資料活用の一環として保存・公開という観点から、以下の活動を通じ、附属図書館における貴重書・和装古書・洋書古書の体系的な調査研究と、その成果の公開促進について検討することを目的としている。

- ① 貴重書展示室における常設展・特別展・企画展の計画・展示活動支援の推進。
- ② 貴重書・和装古書・洋書古書の基礎的調査・研究およびそれらの効果的な保存・公開の方法・手法・知識・技術の研究。
- ③ 貴重書指定の要件に関する検討。

2. 実施計画

- (1) 令和6年度企画展等の計画および展示活動・図録等編集支援。
- (2) 常設展の計画および展示活動支援。小特集にかかる解説シートの編集・発行。
- (3) 貴重書・和装古書・洋書古書の基礎的調査・研究およびそれらの有効な公開方法・手法・知識・技術の研究。
- (4) 和装古書・洋書古書などの貴重書指定に関する提言・助言。

3. 主な研究成果（発表論文、会議発表、受賞等あれば付記）

(1) 著書

- ① 筑波大学附属図書館編（谷口孝介・井川義次・水野裕史執筆）『令和6年度筑波大学附属図書館特別展 忠孝一本：江戸時代のモラルティ』筑波大学附属図書館、2024年10月、38頁。

(2) 講演・口頭発表

- ① 水野裕史「和漢の学問を支える神」令和6年度筑波大学附属図書館特別展講演会、筑波大学附属図書館主催、2024年11月6日
- ② 井川義次「儒教概念受容に関する東西の特殊性について」令和6年度筑波大学附属図書館特別展講演会、筑波大学附属図書館主催、2024年11月6日

(3) 展覧会

- ① 筑波大学附属図書館主催、令和 6 年度筑波大学附属図書館特別展「忠孝一本：江戸時代のモラルティ」筑波大学中央図書館貴重書展示室、2024 年 10 月 29 日～11 月 22 日。
- ② 筑波大学附属図書館主催、令和 6 年度筑波大学附属図書館特別展「忠孝一本：江戸時代のモラルティ」電子展示、<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2024/>、2024 年 10 月 29 日～。
- ③ 筑波大学附属図書館主催、筑波大学附属図書館常設展「古典籍のインターフェース」筑波大学中央図書館貴重書展示室、2023 年 11 月 20 日～。
- ④ 常設展小特集「リーダーの条件：日本の帝王学とその教え」水野裕史（芸術系）担当、2024 年 12 月 2 日～。

(3) 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討

| 具体的な主題  |                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 研 究 組 織 | 高久 雅生 准教授 (図書館情報メディア系)<br>斎藤 未夏 部長 (学術情報部)                                          |
| 協 力 者   | 関戸 麻衣 (学術情報部情報企画課)<br>西 彩花 (学術情報部情報企画課)<br>中尾 拓夢 (学術情報部情報企画課)<br>真中 孝行 (学術情報部情報企画課) |

1. 研究目的

現行図書館システムにおける、資料検索や業務利用の最適化を図るための効果検証を行うとともに、必要に応じて、次世代の利用環境に対応する図書館システムの課題抽出に向けて、仕様や運用改善の検討に資する調査等を実施する。

2. 実施計画

現行システムの初年度を迎えるため、システムの課題や新たな使用法等の洗い出し、検討を行う。なお、計画の推進にあたっては、必要に応じて、利用者や図書館職員からのヒアリングなども検討する。

3. 主な研究成果 (発表論文、会議発表、受賞等あれば付記)

昨年度に続いて、システム更新後の図書館 OPAC や Tulips Search の状況等について調査、検討を実施した。

- 2025 年 2 月: 令和 6 年度附属図書館研究開発室成果報告会において口頭発表とポスター報告を行った。

#### (4) デジタル画像の利用促進

| 具体的な主題  | III F 対応デジタルアーカイブの活用方法の拡張と運用方法のブラッシュアップ                                                           |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研 究 組 織 | 和氣愛仁 准教授(人文社会系)<br>宇陀則彦 教授(図書館情報メディア系)<br>堤智昭 助教(人文社会系)                                           |
| 協 力 者   | 三原鉄也 助教(人文社会系)<br>真中孝行 (学術情報部情報企画課)<br>関戸麻衣 (学術情報部情報企画課)<br>西彩花 (学術情報部情報企画課)<br>中尾拓夢 (学術情報部情報企画課) |

##### 1. 研究目的

2023 年 3 月、附属図書館システムの一部として III F 対応デジタルアーカイブシステムが公開された。これにより本プロジェクトの当初の目的は達成されたと考えられる。今後は、デジタルヒューマニティーズやデジタルアーカイブ等の関連学会の知見を取り入れつつ、III F マニフェストの新たな活用法の開発、Omeka S の機能を活用したデジタルコレクションの公開、CODH によって公開されている Curation API を活用したキュレーション等、デジタルアーカイブの多面的な活用方法を開発していく。また、それに対応して、システムの運用方法をブラッシュアップしていく。

##### 2. 実施計画

教員、職員、納入業者の連携により、必要な機能の調査と要件確定、システム設計、サービス構築等を実施する。

##### 3. 主な研究成果（発表論文、会議発表、受賞等あれば付記）

和氣愛仁; 堤智昭; 三原鉄也; 宮川 創; 宇陀則彦; 松村敦; 小林健神「筑波大学の DH 研究と教育の取り組み」“International Symposium on Buddhist Studies and Digital Humanities: 100 Years of the Taishō Tripiṭaka and 30 Years of SAT”, 2024-12-22, 東京大学本郷キャンパス



(5) バーチャル図書館コンテンツの研究開発

| 具体的な主題  |                                                                                  |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 研 究 組 織 | 小野 永貴 (図書館情報メディア系)<br>宇陀 則彦 (図書館情報メディア系)                                         |
| 協 力 者   | 多様化支援 (学術情報部)<br>松村 敦 (図書館情報メディア系)<br>佐藤 翔 (同志社大学免許資格課程センター)<br>高野 和彰 (日本大学芸術学部) |

1. 研究目的

新型コロナウイルス対策に伴い、多くの図書館で非来館型コンテンツの開発と公開が進んでいる。本研究では、その代表的な形態として、360 度全方向を見渡せる全天球画像・映像を用いたバーチャル図書館に着目し、大学生を対象として効果的なコンテンツの研究開発を行う。館外からでも書架空間を体感できる VR コンテンツの利用を通し、書架利用能力の向上や偶発的な資料発見等の効果を得られるかどうか、実験を通して実証的に明らかにすることを目的とする。

2. 実施計画

令和5年度に撮影済みの、図書館情報学図書館を対象としたバーチャル図書館コンテンツのプロトタイプについて、さらなる加工・編集を行い品質と操作性の向上を図る。また、令和5年度に実施した当該コンテンツの利用実験について、より詳細な結果データの分析や追加の検証を行い、コンテンツの利用効果や他種の図書館サービスと比較した特性を考察する。以上の成果をふまえて、新たな図書館サービスとして果たしうる役割や波及可能性、および持続可能な運用手法の実現性について、議論および提言を行う。

3. 主な研究成果 (発表論文、会議発表、受賞等あれば付記)

- ①昨年度、道順に沿って VR 空間内を歩くのみの形態と、説明文や補足動画を見ながら歩く形態の2種のコンテンツを試作し、学生へ利用実験を実施した。効果分析の観点として「図書館不安」を採用し、利用前後で収集したデータの分析を進めた。
- ②C-LAS と呼ばれる尺度に基づく分析の結果、VR 空間内を歩くのみの形態では「図書館に対する知識」に対して差が確認され、説明文や補足動画を見ながら歩く形態では「図書館職員」と「図書館での探索」に対して差が確認された。自由記述等の分析でこれらの差が生じる要因を考察し、いずれのパターンでも VR 利用後に一定の不安緩和が確認される結論となった。
- ③上記実験は図書館情報学図書館を対象に行い、館外の PC から閲覧する場合の効果を確認したが、一方で図書館情報学図書館に直接来館できる学生にとっては、継続的に VR を閲覧する意義は低下することが懸念された。そこで今後の発展に向け、館内でバーチャルコンテンツを表示することで新たな展示体験をもたらす可能性に着目し、その実施手法について議論を行った。
- ④さらに、本研究で蓄積したバーチャルコンテンツ開発の知見を他の館種にも適用できるか考究すべく、同様の手法で学校図書館の VR を撮影する実践も追加で試みた。

(6) 図書収蔵環境の安定化と対策

|        |                                                                    |
|--------|--------------------------------------------------------------------|
| 具体的な主題 | 医学図書館、図情図書館資料の保存科学的調査                                              |
| 研究組織   | 松井敏也 教授（芸術系）                                                       |
| 協力者    | 真中篤子、齊藤真以、渡邊雅子 医学図書館<br>大越喜公美、木野村和人 図書館情報学図書館<br>中野実歩 世界文化遺産学プログラム |

1. 研究目的

医学図書館、図情図書館の資料保全におけるリスクの把握

2. 実施計画

医学図書館、図情図書館においてはカビの発生が懸念され、その対応に追われていることから、温度湿度の年間挙動をデータロガーを設置し把握する。これによりその発生時期、リスクの変動を可視化する。また現状の対応の調査から、その課題を明らかにし、改善策を提示する。

3. 主な研究成果（発表論文、会議発表、受賞等あれば付記）

医学図書館書架はほとんど温湿度の差が見られず、カビのリスクを下げるには温度を2－3℃下げ、湿度も10%低下させたい。通風が効果的だが館内にカビの胞子が拡散する恐れがあり、カビ発生資料数が多く燻蒸処理が理想。燻蒸ができない場合は一斉クリーニングなどで対応。またその後は利用者に手などの殺菌を励行。図情図書館はカビのリスクを下げるには温度を4℃下げ、湿度も10%低下させたい。2階出入り口から2階書架へ湿度が流入しているおそれ、館内の空調圧を正圧にできれば外気の流入が防げる。1階も閲覧室の水分量が高く、新着雑誌に湿気が移行しているおそれがある。

(7) 筑波大学附属図書館における「デジタル・ライブラリー」の推進  
ーライブラリー・スキーマ案の検討を中心にー

| 具体的な主題  | 「デジタル・ライブラリー」推進に係る調査検討  |                   |
|---------|-------------------------|-------------------|
| 研 究 組 織 | 斎藤未夏                    | 学術情報部             |
|         | 山口恵理子                   | 附属図書館副館長・人文社会系    |
|         | 小泉公乃                    | 図書館情報メディア系        |
|         | 村井麻衣子                   | 図書館情報メディア系        |
| 協 力 者   | 附属図書館デジタル・ライブラリー推進 WG : |                   |
|         | 真中孝行                    | 学術情報部 情報企画課       |
|         | 若山勇人                    | 同上                |
|         | 西彩花                     | 同上                |
|         | 中尾拓夢                    | 同上                |
|         | 森島葉月                    | 同上                |
|         | 武内八重子                   | 学術情報部 アカデミックサポート課 |
|         | 又吉うめ乃                   | 同上                |
|         | 松野渉                     | 同上                |
|         | 齊藤真以                    | 同上                |
|         | 木野村和人                   | 同上                |

1. 研究目的

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議まとめ）」において示された「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて、附属図書館の機能を再定義するため、令和 3 年度プロジェクト「附属図書館の将来構想の検討」での検討成果を踏まえつつ、ライブラリー・スキーマ案の作成その他の「デジタル・ライブラリー」推進に係る調査検討を行う。

2. 実施計画

- ・ 「附属図書館デジタル・ライブラリー推進 WG」を組織し、下記の各報告書等を参照しながら、ライブラリー・スキーマ案の作成その他「デジタル・ライブラリー」推進に係る調査検討を行う。
  - 「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）」科学技術・学術審議会 情報委員会 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会（令和 5 年 1 月 25 日）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/004/mext\\_00001.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/004/mext_00001.html)
  - 「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会 議事録・配布資料  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shinkou/071/index.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/071/index.html)
  - 「筑波大学附属図書館の使命と目標」（平成 24 年 2 月 28 日）  
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/mission>
  - 「筑波大学附属図書館中期目標 2022-2027」（令和 4 年 2 月 22 日）
- ・ ライブラリー・スキーマ案の作成にあたっては、他大学との情報交換、視察等を行うとともに、研究分担者をはじめ、学生、教職員等のステークホルダーからの意見や助言を聴取し、検討の参考とする。

### 3. 主な研究成果

(1) 附属図書館デジタル・ライブラリー推進 WG において、ライブラリー・スキーマ案の作成に向けた以下の作業を行った。

- ① 『附属図書館の使命と目標』の見直し
  - 「〇〇のために△△する」という文章形式ではない表現方法を模索した。
  - 近年の図書館活動の変化を反映させるため、他大学図書館の目標など、筑波大学のビジョンなどを調査した。
- ② 業務の構造化
  - 図書館の業務を書き出したうえで、関連を整理した。
- ③ 「筑波大学附属図書館らしさ」の探索
  - 図書館の業務一覧を元に特徴を書き出した。
  - 大学創設時の構想資料、『筑波大学図書館史』、館報『つくばね』、附属図書館年報、『筑波大学新聞』などを調査した。
- ④ 利用者の活動と図書館の関係について整理
  - 利用者の資料利用行動についてカスタマージャーニーマップを作成し、図書館あるいは図書館以外とのタッチポイントを整理した。
- ⑤ 情報利用環境において将来的に考えられる影響の検討
  - AI 等の技術革新などが、研究・教育・学習における資料（情報）利用環境に与える影響を考察した。

(2) 上記の作業を行うにあたり、同 WG にて、下記の打合せ及び近隣大学への訪問調査等を実施した。

① WG 全体での打合せ

令和6年6月21日 キックオフミーティング

② 主査・副査の打合せ

令和6年      6月13日      第1回  
                  9月20日      第2回

③ ライブラリー・スキーマ検討チーム打合せ（「小ミーティング」の括弧内の記述は、当該打合せの内容が、前述の(1)のどの作業に対応したものであったかを示す）

令和6年      7月12日      第1回チームミーティング  
                  7月26日      第2回チームミーティング  
                  8月5日      小ミーティング ((1)-④ 第1回)  
                  8月7日      小ミーティング ((1)-⑤ 第1回)  
                  8月20日      小ミーティング ((1)-⑤ 第2回)  
                  8月22日      小ミーティング ((1)-⑤ 第3回)  
                  8月26日      小ミーティング ((1)-④ 第2回)  
                  8月27日      第3回チームミーティング  
                  9月5日      小ミーティング ((1)-④+⑤検討)  
                  9月30日      第4回チームミーティング  
                  11月15日      第5回チームミーティング  
                  11月25日      小ミーティング ((1)-① 第1回)  
                  12月11日      小ミーティング ((1)-① 第2回)

- |      |        |                  |
|------|--------|------------------|
|      | 12月20日 | 小ミーティング ((1)-②③) |
|      | 12月25日 | 第6回チームミーティング     |
| 令和7年 | 2月4日   | 第7回チームミーティング     |
- ④ 館内コミュニケーションツール DX チーム打合せ
- |      |        |                      |
|------|--------|----------------------|
| 令和6年 | 7月4日   | 第1回チームミーティング         |
|      | 8月1日   | 第2回チームミーティング         |
|      | 9月20日  | 第3回チームミーティング         |
|      | 10月29日 | 第4回チームミーティング         |
|      | 11月28日 | 第5回チームミーティング         |
|      | 12月17日 | セールスフォース社との打合せ       |
| 令和7年 | 1月9日   | 第6回チームミーティング         |
|      | 3月4日   | 部課長への報告及び Slack 導入提案 |
- ⑤ 研究開発室教員との意見交換会
- |      |        |                    |
|------|--------|--------------------|
| 令和6年 | 10月8日  | 小泉公乃教授(図書館情報メディア系) |
|      |        | 村井麻衣子准教授(同上)       |
|      | 10月30日 | 宇陀則彦教授(同上)         |
- ⑥ 他大学との意見交換会
- |      |        |                         |
|------|--------|-------------------------|
| 令和6年 | 10月15日 | 新潟大学・東京大学・京阪神3大学との意見交換会 |
|------|--------|-------------------------|
- ⑦ 近隣大学への訪問調査
- |      |       |             |
|------|-------|-------------|
| 令和7年 | 2月7日  | 東京学芸大学附属図書館 |
|      | 2月20日 | 電気通信大学附属図書館 |
|      | 3月12日 | 国際基督教大学図書館  |
|      | 3月21日 | 青山学院大学図書館   |
- (3) これらの作業を踏まえて、ライブラリー・スキーマ案として、「必要となる論理」(図書館が目指すもの)と「業務の基本構造」を層状に整理し繋いだ図を作成し、研究開発室成果報告会(令和7年2月14日開催)にて報告した。

#### 4. プロジェクト報告

---

### 4.2 令和6年度成果報告会



## 令和 6 年度附属図書館研究開発室研究成果報告会

日時：令和 7 年 2 月 14 日（金） 10 時 30 分～12 時 00 分

場所：中央図書館本館 2 階ラーニングスクエア

### <プログラム>

山口研究開発室長挨拶（10:30-10:35）

#### 第 1 部 口頭発表（10:35-11:25）

|                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討<br>（第 1 プロジェクト・島田康行教授/人文社会系）                                                   |
| 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討<br>（第 3 プロジェクト・高久雅生准教授/図書館情報メディア系）                                            |
| デジタル画像の利用促進<br>（第 4 プロジェクト・和氣愛仁准教授/人文社会系）                                                             |
| バーチャル図書館コンテンツの研究開発<br>（第 5 プロジェクト・小野永貴助教授/図書館情報メディア系）                                                 |
| 筑波大学附属図書館における「デジタル・ライブラリー」の推進<br>ーライブラリー・スキーマ案の検討を中心にー<br>（第 7 プロジェクト・学術情報部・附属図書館デジタル・ライブラリー推進WGメンバー） |
| 附属図書館における貴重資料の保存と公開<br>（第 2 プロジェクト・水野裕史准教授/芸術系）                                                       |

#### 第 2 部 ポスター発表（11:30-12:00）

|                                     |
|-------------------------------------|
| ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討（第 1 プロジェクト）  |
| 附属図書館における貴重資料の保存と公開（第 2 プロジェクト）     |
| 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討（第 3 プロジェクト） |
| デジタル画像の利用促進（第 4 プロジェクト）             |
| 図書収蔵環境の安定化と対策（第 6 プロジェクト）           |

## 4.2 令和6年度成果報告会 資料(ポスター発表)



## 『第1プロジェクト ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討』

### 1. 担当室員・協力者

研究代表者 島田康行(人文社会系)  
研究分担者 野村港二(生命環境系)  
小泉公乃(図書館情報メディア系)  
小野永貴(図書館情報メディア系)  
協力者 田川拓海(人文社会系)  
学習支援推進WG(附属図書館)

### 2. 研究目的

ラーニングコモンズにおける学習支援活動の一環として、「ライティング支援連続セミナー」を実施し、ラーニングコモンズにおける学群生、大学院生への学習支援の在り方を検討する。

### 3. 主な研究成果

上担当室員・協力者の教員5名で、中央図書館本館2Fギャラリゾーンにて、以下のとおり全6回のライティング支援セミナーを実施した。  
参加者数は延べ82名であった。

実践！レポート・論文の文章術  
**ライティング支援連続セミナー 2024**

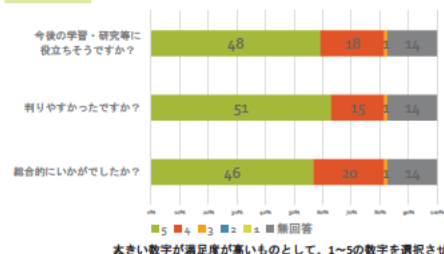
予約不要 10/17～11/21 毎週木曜日15:15～  
中央図書館2階ギャラリゾーンにて  
どなたでも参加できます！

| 回   | 日時                      | タイトル                                 | 講師                   |
|-----|-------------------------|--------------------------------------|----------------------|
| 第1回 | 10/17(木)<br>15:15～16:15 | 学術論文とそのほかの文章の特徴                      | 小泉公乃先生<br>図書館情報メディア系 |
| 第2回 | 10/24(木)<br>15:15～16:15 | 下書きからパラグラフライティングを目指す                 | 田川拓海先生<br>人文社会系      |
| 第3回 | 10/31(木)<br>15:15～16:15 | 疑うことから始めよう 一批判的に考える                  | 島田康行先生<br>人文社会系      |
| 休み  | 11/7(木)<br>15:15～16:15  | 事実と意見                                | 野村港二先生<br>生命環境系      |
| 第4回 | 11/14(木)<br>15:15～16:45 | 事実と意見 / 文字と絵                         | 野村港二先生<br>生命環境系      |
| 第5回 | 11/21(木)<br>15:15～16:15 | レポート執筆から論文投稿へ<br>～書いた文章を学会に出す基本と注意点～ | 小野永貴先生<br>図書館情報メディア系 |

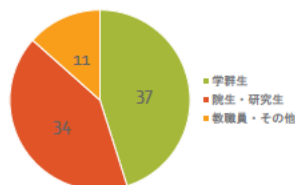
※1回だけの参加でもOKです。  
当日参加やアンケート回答で図書館オリジナルグッズをプレゼント！  
セミナー講師・イベントアドバイザー  
Copyright © 2024, All Rights Reserved. 中央大学附属図書館  
10/17(木) 15:15～16:15 第1回

| 回     | 開催日時                     | 講師 | タイトル                                 | 対象     | 学群生 | 院生・研究生 | 教職員・その他 | 計  |
|-------|--------------------------|----|--------------------------------------|--------|-----|--------|---------|----|
| 第1回   | 10月17日(木)<br>15:15-16:15 | 小泉 | 学術論文とそのほかの文章の特徴                      | 学群生    | 10  | 7      | 2       | 19 |
| 第2回   | 10月24日(木)<br>15:15-16:15 | 田川 | 下書きからパラグラフライティングを目指す                 | 学群生    | 11  | 5      | 1       | 17 |
| 第3回   | 10月31日(木)<br>15:15-16:15 | 島田 | 疑うことから始めよう 一批判的に考える                  | 学群生    | 5   | 7      | 2       | 14 |
| 第4/5回 | 11月14日(木)<br>15:15-16:45 | 野村 | 事実と意見 / 文字と絵                         | 学群生・院生 | 8   | 5      | 2       | 15 |
| 第6回   | 11月21日(木)<br>15:15-16:15 | 小野 | レポート執筆から論文投稿へ<br>～書いた文章を学会に出す基本と注意点～ | 学群生・院生 | 3   | 10     | 4       | 17 |

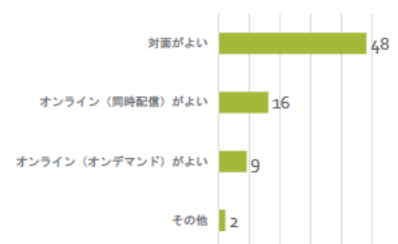
#### ■満足度



#### ■参加者内訳



#### ■セミナーの形式



#### ■自由記述

##### 意見・感想

- ◆ 普段文章を読む際に、文章の特徴について考える機会があまりなかったので、文章の特徴を探すワークがとても新鮮でした。
- ◆ 下書きとしてのアウトラインの項目など、論文のタネ、ネタをどのように取り扱うか、迷っていたところだったのでありがたかった。
- ◆ 現在文章を書いているので「まず言葉にする」というライティングにおける先生のお考え、スタイルがとても参考になりました。
- ◆ 紙を切ったり絵にキャプションを付けたりする時に、人によって結果や解釈が異なるところが面白かった。
- ◆ 授業の関係で参加したいセミナーに参加できないのでオンデマンドにしたいです。

##### 今後取り上げてほしいテーマ

- ◆ 学術論文で使う、または使わない表現や、表やグラフの使い方などを知りたい。
- ◆ 先行研究の調べ方
- ◆ 生成AIについて

#### ■セミナーの様子



## 附属図書館における貴重資料の保存と公開

### 附属図書館における貴重書・和装古書の保存・公開と基礎的研究

研究代表者 水野裕史（室員・芸術系准教授）

当プロジェクトは、附属図書館資料活用の一環としての保存・公開という観点から、次の活動を通じ、附属図書館における貴重書・和装古書・洋書古書の体系的な調査研究とその成果の公開促進について検討することを目的としている。

- ① 貴重書展示室における常設展・特別展の計画・展示活動支援の推進。
- ② 貴重書・和装古書・洋書古書の基礎的調査・研究およびそれらの有効な保存・公開の方法・手法・知識・技術の研究。
- ③ 貴重書指定の要件に関する検討。
- ④ 将来的な貴重書・和装古書の保存環境についての検討。

#### 〔成果1〕特別展の計画・展示活動

##### 令和6年度筑波大学附属図書館特別展「忠孝一本—江戸時代のモラリティ」

江戸時代の人びとの生活や道徳観を紹介し、その文化に息づいていた道徳観を再評価することを目指した展覧会。「忠」とは君臣関係、「孝」は親子関係の在り方を示す儒教的な概念である。江戸時代、これらは「一本」、すなわち同義を見なされていた。現代社会では「忠」は薄れ、江戸時代の概念は姿を消したように考えられているが、一部では「孝」の精神は失われていないように思う。江戸時代の道徳観を肯定することができないが、展覧会では人間関係の在り方や社会との調和を見直す機会となることを願う。第1部：帝王学 - 『貞観政要』と『帝鑑図説』、第2部：『孝経』と東アジアの孝子伝、第3部：地方の孝子伝、第4部：江戸時代の教育 藩校と寺子屋という四つの視点から迫った。

・協力者：谷口孝介（名誉教授） 井川義次（人文社会系教授）

##### 特別展WG

・図録の編集・発行、電子展示、講演会。

・来場者数：1,319名。



#### 〔成果2〕常設展示・小特集の計画・展示活動

##### 常設展「古典籍のインターフェース」

文化遺産としての古典籍への最適のアクセス方法を提案することを目的とした展覧会。

担当：谷口孝介（名誉教授） 葛西太一（人文社会系准教授） 茂野智大（人文社会系助教）

・図録の編集・発行

##### 小特集「リーダーの条件：日本の帝王学とその教え」

古代から近世に至る日本のリーダーシップ形成に大きな影響を与えた帝王学の思想と教育について、7点の貴重な資料を通じて紹介する。

担当：水野裕史

・『帝鑑図説』ほか7点を展示

・リーフレットの編集・発行



# 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討

担当室員：高久、斎藤  
協力者：関戸、西、中尾、真中

## 新図書館システム (2024 - 2029)

### 取り巻く環境の変化

- ・ コロナ後 + DX、人員/予算の削減
- ・ 教育組織の変革、再編成（総合選抜, 学位プログラム化, 教学マネジメント, and more）
- ・ オープンサイエンス、オープンアクセスの進展、推進
- ・ 文献入手手段の複線化、多様化

+

### 前提条件 (Input)

- ・ コンセプト「知識創造型図書館」（学びと研究支援の基盤）の継承
- ・ 学内仮想サーバ/クラウドアプリケーション環境のさらなる導入
- ・ 業務システムの簡素化
- ・ 電子と紙の資料の一体的な管理・アクセス簡易化への追求
- ・ モダンなデジタルアーカイブ（デジタルコンテンツ）の提供へ

#### Tulips Search

#### OPAC (蔵書検索)

筑波大学の蔵書と世界中の論文を探ることができます。

Search

OPAC (詳細検索) データベース  
電子ジャーナル 電子ブック  
つくばリポジトリ デジタルコレクション



### 新システムの要点

- ・ Tulips Searchの刷新
- ・ 電子リソースの利用環境向上
- ・ デジタルアーカイブの提供
- ・ リモートアクセスサービスのクラウド化
- ・ 図書館PC・プリンタの簡素化

筑波大学デジタルコレクション - コレクション一覧 所蔵資料一覧 English ヘルプ

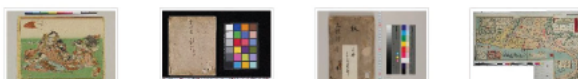
Tulips DC-



お知らせ

2024年3月1日 筑波大学デジタルコレクションを公開しました

ピックアップアイテム



2030年代に向けて、学内外の様々な環境の変化と多様なニーズを考慮しながら、**【漸進的な改善】**と**【新しいチャレンジ】**の継続が重要

- ・ 文献検索環境の変化、多様化への対応（多様なシステムとの連携を強化）
- ・ 安定した提供サービス基盤の提供
- ・ 利用者ニーズの把握とニーズに合わせたサービス提供へのフィードバック
- ・ 残された業務課題の抽出
- ・ 他研究プロジェクト成果との連携（デジタル画像の利用促進、「デジタル・ライブラリ」）

# デジタル画像の利用促進

和氣愛仁、堤智昭、三原鉄也（人文社会系）、宇陀則彦（図書館情報メディア系）  
真中孝行、関戸麻衣、西彩花、中尾拓夢（附属図書館）

## 背景 Background

約3万冊分の貴重資料画像(毎年数百～数千冊分作成)を  
1998年からOPAC(蔵書検索)の一部として順次公開

### 課題 Problems

- 公開開始時期ごとのデータ形式・ビューアの操作性の相違
- 外部から利用しづらい
  - ・ 関係機能無し
  - ・ 資料情報ほぼ無し(タイトルのみ)



## 目的 Purposes

- GLAM(Galleries, Libraries, Archives, Museums)におけるIIIF対応の世界的潮流への対応
- 図書館システムとデジタルアーカイブの連携
- 貴重資料画像や資料情報の外部利用促進



**International Image  
Interoperability Framework**  
Web上のコンテンツを効率的に相互利用するために  
策定された技術的な枠組み

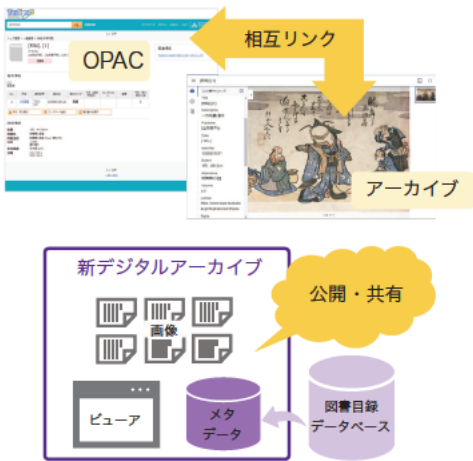
## 仕様 Specifications

### システム System

- 図書館システム：リコーLIMEDIO
- デジタルアーカイブ用CMS：OmekaS
- IIIF画像対応サーバ：Cantaloupe
- 画像ビューア：Mirador v.3

### 機能 Functions

- 図書館の目録DBとの連携
  - ・ 資料情報活用
  - ・ OPAC(蔵書検索)とのリンク
- IIIF Image APIを通じた資料画像の公開
- IIIF Presentation APIによるマニフェスト(資料情報)の公開
- 国立国会図書館サーチとの連携(予定)



## 現状 Current Status

- 2024年3月公開  
以下公開に至るまでの課題
- メタデータのマッピング
  - ライセンス
  - データ移行 etc.

附属図書館キャラクター  
ちゅーりっぷさん / がまじゃんぱー



## 課題 Tasks

### 職員視点 Staff's Point of View

- 安定的に持続可能な運用体制の構築
- 今後のシステム更新に向けた検討(URLの維持等)

### 研究者視点 Researchers' Point of View

- 高度なデータ利用
- 機能アップ



# 筑波大学附属図書館研究開発室 第5プロジェクト 「バーチャル図書館コンテンツの研究開発」

令和7年2月

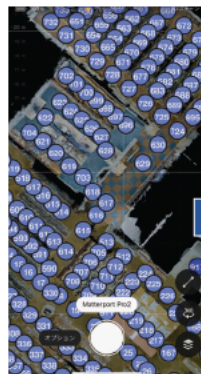
(担当室員) 研究代表者: 小野永貴 (図書館情報メディア系 助教)  
研究分担者: 宇陀則彦 (図書館情報メディア系 教授)

本研究には、前年度研究協力者である沼口天氏 (人間総合科学研究群情報学学位プログラム博士前期課程修了生、主研究指導教員: 高久雅生准教授、実質指導教員: 松村敦助教) の修士論文として実施した成果が含まれます。

## 1. 背景・目的・方法

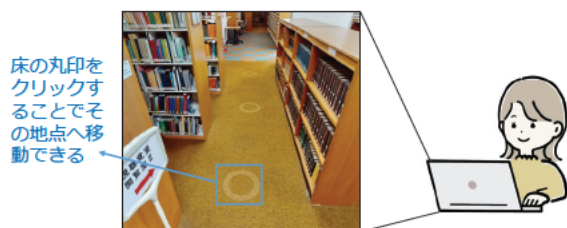
- ・ 新型コロナ禍以降、図書館のバーチャルコンテンツに関心が高まっている。
- ・ 本研究は、まず代表的な形態として、360度全方向を見渡せる全天球画像を用いたバーチャル図書館に着目する。
- ・ 筑波大学図書館情報学図書館のVRコンテンツを試作し、利用を通して学生が効果を得られるかどうか、実験を通して明らかにする。
- ・ これらの成果をふまえ、新たな図書館サービスとしての将来性や運用の在り方について提言を目指す。

## 2. 試作したVRコンテンツ

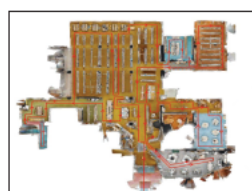


対象館: 図書館情報学図書館 1階～2階  
走査点数(総撮影画像数): 705

## 3. VR利用実験



コンテンツをノートPCのモニタに表示し、マウスを使用して移動する形態で、利用実験を行った。制限時間内にルート図に沿ってVR空間内を歩いてもらうことで、仮想的に図書館ツアーを再現した。利用効果の分析を実施した。



グループA:  
ルートに沿ってVR内を歩く



グループB:  
注釈タグを読みながらVR内を歩く

それぞれの効果を検証

## 4. 効果検証の観点

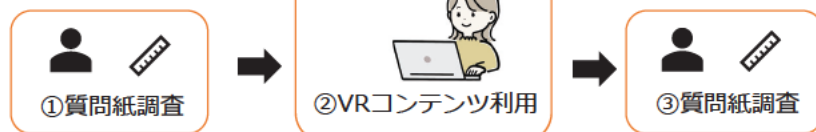
- ・ 図書館不安
  - ・ 大学生の一定数が、図書館に対して「恐怖」や「不安」といった感情を抱えることが明らかになっている (Mellon, 1986)
- ・ 図書館不安尺度LAS (Library Anxiety Scale)
  - ・ 図書館不安の構成要素を分類し、それらを与える不安の大きさを測定する尺度 (Bostic, 1992)
  - ・ 日本版尺度の開発事例は無いため、今回は中国での先行研究におけるC-LAS (Song Zhiqiang, 2014) を援用し質問項目を追加・修正

1. 図書館に対する知識 (5項目)
2. 図書館の規則 (5項目)
3. 図書館職員 (8項目)
4. 図書館への愛着 (5項目)
5. 図書館での探索 (5項目)
6. 図書館の快適さ (5項目)
7. 図書館の資源 (3項目)

VR図書館の利用でこれらの不安要素は改善されるのか?

## 5. 分析および結果

筑波大学の学生 計15名にVR図書館を利用してもらいVR利用の前後で質問紙調査を実施し、図書館不安の改善の変化を検証



グループA (注釈タグなしで歩く) 結果

知識の要素に有意な差があった ( $p < .05$ )

➡ VRを利用することで所蔵資料への知識が深まり、知識への不安が緩和されたのではないかと

グループB (注釈タグを読みながら歩く) 結果

スタッフと探索の要素に有意な差があった ( $p < .05$ )

➡ 使い方がわからず利用できず、聞くことも躊躇っていたサービスや設備の情報を、タグによって獲得できたことが、不安の緩和に影響を与えたか

※この実験は、筑波大学図書館情報メディア系研究倫理審査委員会の承認を受けて実施しております。

## 6. 今後の展望

- ・ 注釈タグの効果を高める多言語化
- ・ 海外遠隔サービスの可能性
- ・ 多様な表示デバイスや投影方法への発展
- ・ HMDや超大型ディスプレイでは?



# 令和6年度附属図書館研究開発室成果報告 第6プロジェクト「図書収蔵環境の安定化と対策」

◎松井敏也<sup>1</sup>、中野実歩<sup>2</sup>、大越喜公美<sup>3</sup>、木野村和人<sup>3</sup>、  
真中篤子<sup>4</sup>、齊藤真以<sup>4</sup>、渡邊雅子<sup>4</sup>

1 芸術系、2 人間総合科学研究科、3 図情図書館、4 医学図書館

## 研究目的

医学図書館、図情図書館の資料保全におけるリスクの把握

## 研究計画・実験方法

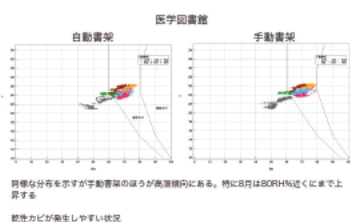
医学図書館、図情図書館においてはカビの発生が懸念され、その対応に追われていることから、温度湿度の年間挙動をデータロガーを設置し把握する。これによりその発生時期、リスクの変動を可視化する。また現状の対応の調査から、その課題を明らかにし、改善策を提示する。

## 結果

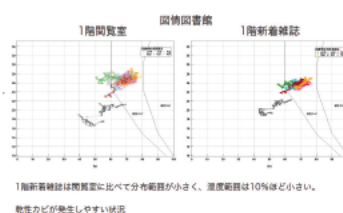
医学図書館では、自動書架と手動書架の温湿度を、6月下旬から11月中旬にかけて計測。手動書架のほうが高湿傾向、特に8月には相対湿度が80%近くに達し、乾性カビが発生しやすい状況だった。

図情図書館では、1階閲覧室と1階新着雑誌、2階出入口と2階書架の温湿度を計測。1階新着雑誌は1階閲覧室より湿度が低く、2階書架は2階出入口より温度範囲が広いという特徴が見られ、乾性カビが発生しやすい状況だった。

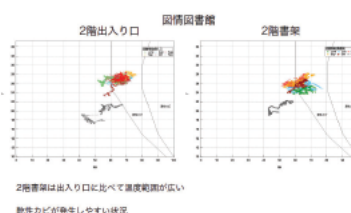
温湿度結果 6月下旬～11月中旬



温湿度結果 6月下旬～11月中旬



温湿度結果 6月下旬～11月中旬



## 結論

測定結果をもとに検討した、カビのリスクを低減させるための改善策

- ・医学図書館では、温度を2～3℃、湿度を10%下げること、資料の燻蒸処理やクリーニング、利用者の手指殺菌など
  - ・現状、図書館の温度を下げると夏場寒すぎるため、24℃設定にしている。
  - ・カビリスク改善策は館内環境と擦り合わせが必要。
  - ・快適な作業環境を維持することも重要、排水が取れるなら除湿機を設置するなどの代替案もある。
- ・図情図書館では、温度を4℃、湿度を10%下げること、空調の調整により館内の空調圧を正圧にし、外気の流入を防ぐこと



# 筑波大学附属図書館における『デジタル・ライブラリー』の推進

研究代表者：斎藤 未夏（学術情報部）

研究分担者：山口 恵里子（副館長）、小泉 公乃（図書館情報メディア系）、村井 麻衣子（図書館情報メディア系）

協力者：附属図書館デジタル・ライブラリー推進ワーキング・グループ

## 目的

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議まとめ）」において示された「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて、附属図書館の機能を再定義するため、令和3年度プロジェクト「附属図書館の将来構想の検討」での検討成果を踏まえつつ、**ライブラリー・スキーマ案の作成** その他の「デジタル・ライブラリー」推進に係る調査検討を行う。

この部分をご報告します！

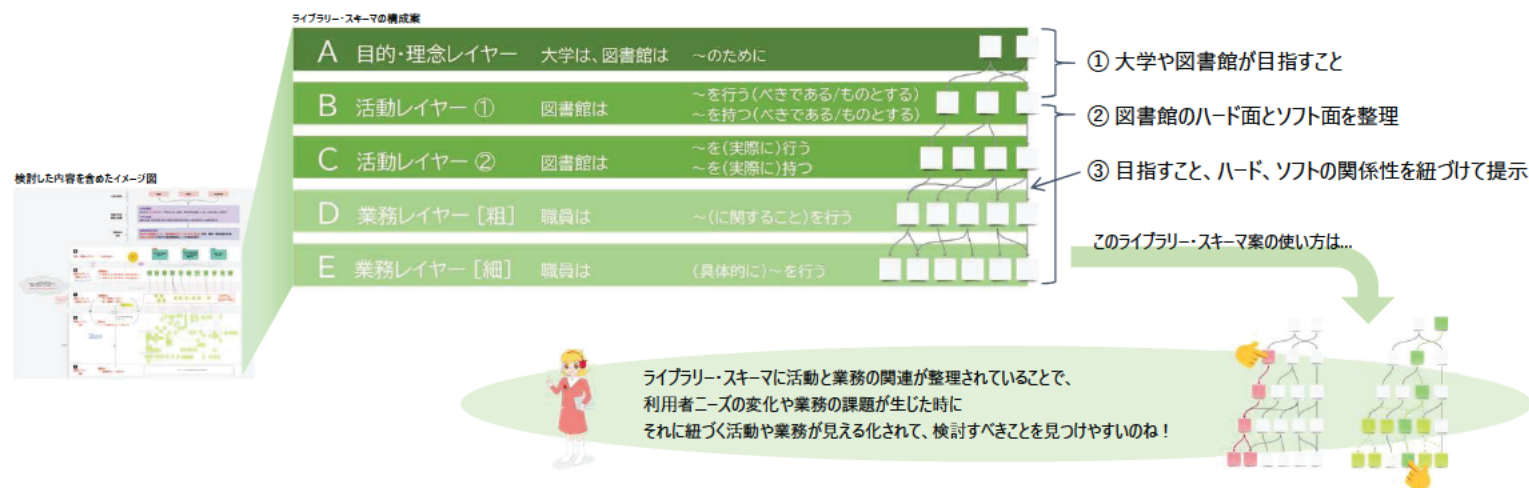
「ライブラリー・スキーマ」とは？

図書館のサービスをデザインする上で必要となる基本的な論理構造のこと。①物理的空間のデザインなどのハード面、②様々なコンテンツの提供や図書館によるサービスなどのソフト面、③その両者の関係性、を定義するものであり、これを具体化したものが、実際に存在する図書館とそこで提供されるサービスとなる。（審議まとめより抜粋）

## 成果

### 筑波大学附属図書館のライブラリー・スキーマ案

附属図書館デジタル・ライブラリー推進WGを中心とした議論で目指した「ライブラリー・スキーマ」は、図書館サービスをデザインする上で必要となる論理と業務の基本構造であり、①図書館が目指すこと、②図書館のハード面とソフト面の関係性を整理したもの、③その両者の関係性、を提示するもの。



## ライブラリー・スキーマ案の作成において検討したこと

### □『附属図書館の使命と目標』の見直し

- ・「〇〇のために△△する」という文章形式ではない表現方法を模索した
- ・近年の図書館活動の変化を反映させるため、他大学図書館の目標など、筑波大学のビジョンなどを調査した

### □「筑波大学附属図書館らしさ」の探索

- ・図書館の業務一覧を元に特徴を書き出してみた
- ・大学創設時の構想資料、『筑波大学図書館史』、館報『つくばね』、附属図書館年報、『筑波大学新聞』などを調査した

### □情報利用環境において将来的に考えられる影響の検討

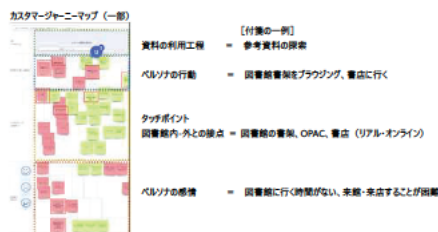
- ・AI等の技術革新などが、研究・教育・学習における資料（情報）利用環境に与える影響を考察した

### □業務の構造化

- ・図書館の業務を書き出したうえで、関連を整理した

### □利用者の活動と図書館の関係について整理

- ・利用者の資料利用行動についてカスタマージャーニーマップを作成し、図書館あるいは図書館以外とのタッチポイントを整理した



### ■館長や部長など附属図書館の管理職による検討

- ・「デジタル・ライブラリー」の推進に向けて、現在の業務の棚卸を行い、それをふまえたこれからの図書館の存在意義について議論した

## 今後の課題

- ライブラリー・スキーマ案をさらに調整し、管理職による検討との接合及び調整を経て、ライブラリー・スキーマを完成させる
- スキーマの見せ方や具体的な活用方法について検討する
- 筑波大学附属図書館の「デジタル・ライブラリー」推進に向けたロードマップを作成する

